

第4章 本質的価値と構成要素

名勝日本平の本質的価値は、眺望、指定地の環境及び稜線美にある。

第1節 本質的価値を構成する要素

	本質的価値三本柱	本質的価値を構成する要素
1	眺望 (※360度のパノラマが見えるという事、外側を見る。)	①360度のパノラマ 開けた山頂からは360度のパノラマを展望できる。 東北に富士山、清水港、三保松原、清見潟、南に久能山、伊豆半島から御前崎にかけて駿河湾一帯を望み、北西には赤石山系（日本アルプス）を展望できる。 ②徳富蘇峰選定の4つの眺望地点 徳富蘇峰が「天下の絶景」と称し、選定し、命名した以下の4つの眺望地点が存在する。 「望嶽台」有度山清水側の八合目付近にある。 「吟望台」日本平山頂の展望回廊の東南側にある。 「鐘秀台」日本平南側の久能寄りの屏風谷に接する付近にある。 「超然台」有度山最高地点にある。
2	指定地の環境 (※指定地の展望環境がどうか、内側を見る。)	①眺望地点としての良好な環境（景観的特徴） 昭和12年（1937）の日本平県立公園指定以降、自然公園として整備されてきた。名勝指定地の山頂部分は主に昭和30年代頃（1955）から整備され、パークウェイやロープウェイの開通などで、指定地に容易にアクセスすることができる。現在多くの人が優れた眺望を觀賞することができる観光地として良好な環境が整備されている。 名勝指定地範囲は、緑が多く良好な景観を形成し、自然環境の保全の上でも重要な地域となっている。 ②景観形成に資する地形とイメージを維持する茶畑 日本平はやぶきた茶発祥地であり、日本平の景観は、黒ぼくといわれる柔らかい土壌と緩やかに傾斜する段丘面の地形の上に、背の低い茶樹の栽培、営農により保護、維持されてきた。 「手前に茶畑、その奥に清水市街地と清水港、三保松原、その

		背後に富士山」という日本平の構図（景観的特徴）が広く定着しており、絵葉書にも採用され日本平の代表的風景となっている。こうした景観的特徴は、茶畑の営農による地形と景観イメージの維持によって形成されている。
3	稜線美 （＊外から見た日本平・有度丘陵の姿）	①地形・地質 有度山は、清水区と駿河区にまたがってゆったりと横たわる緑豊かな丘陵である。特に地域住民にとっては、複数の小中学校の校歌で称えられているように市街地に寄り添ったふるさとのイメージを形成してきた親しみ深い風景であり、見られる丘陵を特徴づける要素として稜線美は欠くことが出来ない。 ②植物 自然林としては、照葉樹林（スダジイ、タブノキ）などがある。スダジイは、尾根の稜線を形成する樹木（林冠構成樹）となっている。 昭和9年（1934）旧道（清水日本平線）建設時、沿道に700本のソメイヨシノの苗を植樹して以来日本平は桜の名所となった。

第2節 本質的価値と関連する要素

1 ヤマトタケル伝説

日本平で四方を見渡したという伝説。『日本書紀』や『古事記』に記される日本武尊の伝説は、有度丘陵北部にあたる草薙周辺に景行天皇が日本武尊を偲び、この地を行幸した時、鳳輦を留めた場所と伝えられる「天皇原」、日本武尊が征伐した賊徒の首を埋めたと伝えられる「首塚」、日本武尊が狩りをした時昼食に柳を折って箸とした場所「柳ヶ澤」など数多く残っている。

2 久能山、久能山東照宮

久能山は有度山の一部であり、屏風谷を挟んで日本平の南側に位置する。日本平からの南側眺望として、屏風谷、久能山、駿河湾、その先の西側に御前崎、東側に伊豆半島へと繋がる景色を望むことができる。日本平と屏風谷、久能山までは、史跡久能山として、名勝日本平と一体的に保護され、その景観が今日まで守られている。

3 アクセス手段

昭和9年に「日本平登山道路」（現旧道・清水日本平線）開通。昭和32年（1957）に日本平と久能山を結ぶ「日本平ロープウェイ」が開通し、空中から「屏風谷」が観賞できるようになった。昭和30～40年代に「日本平パークウェイ」が開通され、清水側だけでなく旧静岡側からも自動車道が開通した。

4 宿泊施設等

日本平山頂から北側へ緩やかに下った斜面上に、日本平周辺では唯一の宿泊施設である日本平ホテルがあり、ロビーや客室から日本平からの眺望を楽しむことができる。公園利用者はホテル内に入り風景を観賞することができる。そのほか観賞者のための食事場所、土産物店がある。

5 山頂シンボル施設、展望回廊、風景美術館「日本平公園」

展望を楽しむための公園を整備中であり、平成30年（2018）には山頂部に日本平夢テラス展望回廊が整備され、来訪者が増加した。

6 人文的景観（産業景観、生活景観、夜間景観）

日本平の人文的景観は、清水港を中心とした産業の発展により生まれた景観。

遠景（自然的景観）／東北に雄大な富士山な風貌、伊豆半島から御前崎にかけて駿河湾一帯が広がり、北西には日本アルプスの山々が連なる。

中景（人文的景観）／清水港、三保松原、久能山東照宮、静岡市街地などの景観が広がり、夜には清水港や静岡市街地の街明かりが人工的美観を形成している。

近景（静岡のイメージにつながる景観）／なだらかな斜面に段上に広がる茶畑の景観は温暖でのどかな静岡市のイメージにつながっている。

7 ミカン

日本平及び有度山のミカン畑は、明治期に開墾され、茶畑と共に静岡を代表する産物として、日本平の風致景観に魅力を添えている。

8 放送関連施設

アナログ放送の終了に伴い5基の鉄塔が撤去、色やデザインに配慮することによりデジタルタワー1基に集約され景観が改善された。

第5章 現状と課題

第1節 指定地全体の現状と課題

Ⅰ 現状

名勝日本平は、昭和7年（1932）に名勝の仮指定を受け、昭和34年（1959）国指定「名勝」指定後、それ以前の無秩序な開発を抑制するため、凍結的保存を基本的な考えとして、昭和58年（1983）「名勝日本平保存管理計画」が策定された。県有地である山頂平坦部（特別地区A地区内）は、公園として昭和12年（1937）に都市計画決定を受けた。山頂周辺部（保全地区B地区）については、そのほとんどが私有地であり、傾斜面地で雑木林や農地となっている。

現在、名勝日本平の内の日本平公園については、平成19年（2007）に「日本平公園基本計画」が策定され、都市計画決定区域88.5haの内、比較的平坦な33.0haについて、利活用を目的とした整備事業が平成22年（2010）から着手し現在に至る。平成22年に昭和58年策定の「名勝日本平保存管理計画」を改定し、「禁止地区」、「準禁止地区」、「緩和地区」の地区区分を改め、「特別地区（A地区）」、「保全地区（B地区）」とした。

平成25年（2013）には、富士山が世界文化遺産に登録されるとともに、三保松原が世界文化遺産「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」の構成資産として認定されたことから、日本平山頂からの富士山や三保松原の眺望のニーズが高まった。

平成27年（2015）に日本平が、日本夜景遺産（日本夜景遺産事務局）に登録されたことを契機に、市民有志による「日本平^{にほんだいら}夜市」が定期的で開催され、市民による活用もされてきている。このように日本平は、観光、地域づくり、教育などが行政や民間業者、地域住民など様々な主体により活用されている。

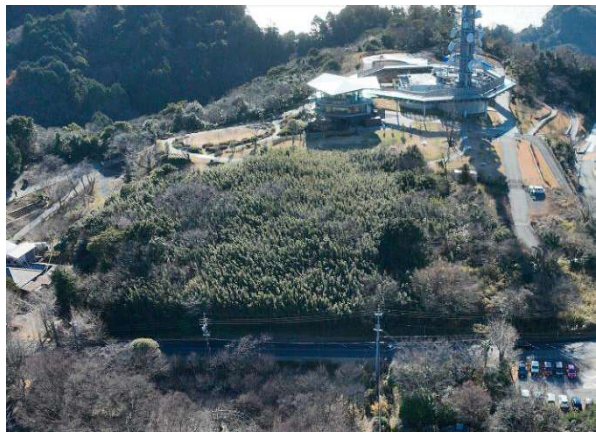
令和7年度（2025）現在公園基本計画を改定中である。日本平の景観の維持を前提としたうえで基本テーマを「風景美術館＝日本平」とし、富士山に代表される四季の風景が、来園者に感動を与える日本一の展望公園づくりを目指している。「日本平夢テラス」や「日本平ロープウェイ」、「日本平ホテル」など日本平公園に点在する施設との面的連携や、時間や季節で変わる日本平からの絶景をカラーコンテンツとする施設など、日本平が持つ魅力を余すことなく活用する取組を検討している。

2 課題

山頂部の景観は、平成 30 年度に夢テラスと展望回廊が整備されたものの、これまで計画的な土地利用の誘導や施設整備が行われていなかったため、雑多な印象を受ける。繁茂した樹林や耕作放棄地が、眺望、景観を悪化させる要因となっているが、公園整備の進捗に伴い、改善していくものと思われる。



繁茂する樹林



耕作放棄地

また、集客が眺望に大きく依存する点も課題であるといえる。名勝日本平の本質的価値が優れた眺望にあることから、日本平への来客の多くは風景の観賞を目的としている。そのため、来客数が天候に大きく左右される、という課題を有す。安定した来客数の維持や滞在時間の延長のため、天候に関わらず行うことのできるアクティビティが必要となる。現状、日本平において開催される体験型のアクティビティは、茶摘み体験や日本平ウォーク、日本平夜市といった、時期や日時が指定されるものに限られている。眺望観賞以外の集客要素の創出が求められる。

インターネットや SNS の活用においても課題がみられる。観光協会やボランティアといった日本平全体に関わる団体からの情報発信が少ない。

第2節 本質的価値を構成する要素の現状と課題

Ⅰ 本質的価値を構成する要素の現状と課題

	小分類	現状と課題
眺望	①360度のパノラマ	日本平からは、清水港のほか、静岡市街や東静岡地区などの都心部も眺めことができ、360°のパノラマも来訪者へ紹介している。しかしながらフォーカスされるのは清水港や富士山などの眺望であり、静岡市の特徴を表す南アルプスから駿河湾までの景観を紹介する機会が少なくなっている。また、名勝日本平から富士山が展望できる日数は、年間の4割に満たないことから、来訪者が悪天候時でも名勝日本平の価値を体験できるしかけの整備が必要となる。
	②徳富蘇峰選定眺望4地点	来訪者が4つの眺望地点のうち訪れることができるのは、現在、吟望台と望嶽台のみであり、残る2か所は立入禁止区域及び個人所有地にあるため、確認することができない状況にある。これにより、徳富蘇峰と日本平の関係性への認知度も低くなっている。徳富蘇峰選定の石碑の周辺環境の整備や徳富蘇峰と日本平の関係性の周知が必要といえる。
指定地の環境	① 眺望地点としての良好な環境	眺望点によっては四周眺望が可能な部分があるが、観光施設等既存施設が計画的に配置されていないこと、景観に配慮した施設となっていないこと、老朽化が顕著な施設があること、樹木の十分な手入れができていないこと等から、快適に景観を楽しむことができない場所がある。
	② 景観形成に資する地形とイメージを維持する茶畑	有度丘陵の西と北麓では茶畑が多く、茶畑と清水港、富士山の姿は、観光地日本平のイメージとして広く知られ、茶摘み体験も行われている。さらに、杉山彦三郎が有度山のふもとで「やぶきた」を発見、育成し、日本茶を代表する品種となっている。「ちゃっきりぶし」の歌詞にも「日本平」「茶つみ」が登場することから、日本平との関係

		性が周知されている。しかしながら、担い手不足により耕作放棄される茶畑や農地が増加している。
稜線美	地形・地質	一部農地や斜面地で本来の地形（日本平上位面）が残っているが、山頂部を中心に人工的な平坦地が形成されており、当該地の主要な要素である地形の一部が損なわれている。また、災害への対応も問題となっている。近年の気候変動により、豪雨が多発しており、急傾斜地において土砂崩れ等自然災害の発生が懸念される他、南海トラフ地震への防災対策も必須となっている。
	植物	山頂部（特別地区 A 地区）は、夢テラス、展望回廊等の公園整備及び観光地並びに放送デジタルタワーとしての整備の手が入っており、人為的なサクラ等の植栽が行われた。保全地区 B 地区の、自然林についても、民地であることから十分に管理されておらず、一部で眺望の阻害要因となっている。
	小分類	現状と課題
眺望	①360 度のパノラマ	日本平からは、清水港のほか、静岡市街や東静岡地区などの都心部も眺めことができ、360° のパノラマも来訪者へ紹介している。しかしながらフォーカスされるのは清水港や富士山などの眺望であり、静岡市の特徴を表す南アルプスから駿河湾までの景観を紹介する機会が少なくなっている。また、名勝日本平から富士山が展望できる日数は、年間の 4 割に満たないことから、来訪者が悪天候時でも名勝日本平の価値を体験できるしかけの整備が必要となる。

2 本質的価値と関連する要素の現状と課題

関連する要素	現状と課題
① ヤマトタケル伝説	『日本書紀』や『古事記』に記される日本武尊の伝説は、有度丘陵北部にあたる草薙周辺に数多く残っている。日本武尊を主祭神とする草薙神社は、神社から日本平山頂部にかけての土地を神社領として保有していたという。現在はハイキングコースとして整備がなされている。また、日本武尊が日本平で四方を見渡したという伝説も存在しており、草薙地区と日本平は、地理的な面、神話的な面の双方でつながりを有している。 しかしながら、日本武尊の伝説に関連する地点の多くは名勝指定範囲外にある、伝説が広く知られておらず活用できていないといった課題がある。
② 久能山、久能山東照宮	日本平と久能山はロープウェイでつながり、空中から屏風谷を観賞することができる。 主要な観光地（清水港、日本平、久能山、三保松原）を周遊できる公共交通手段がないため、自家用車での移動に限られる。
② アクセス手段	富士山静岡空港の開港、新東名高速道路、中部横断自動車道の開通、日本平・久能山スマートインターチェンジの設置により静岡市への来訪者の増加やさらには清水港へのクルーズ船の寄港が増加傾向にあり、日本平への国内外からの観光客の来訪の増加が期待される。しかしながら、山頂への交通アクセスが、清水側の旧道（清水日本平線）と清水側と静岡側の日本平パークウェイしかないため、大規模災害等が発生した場合、渋滞の恐れがある。その一方、日本平山頂への道路が限定的であるため、道路を封鎖することにより、特に要人警護が必要となる国際会議などを開催することも可能となる。
③ 宿泊施設等	現在宿泊施設は日本平ホテルに限定されている。静岡市のコンベンション機能の一部を担い、眺望を楽しみながら文化的交流ができる迎賓館的施設である。広大な美しい芝生庭園が維持管理されている。80 部屋の客室を有する大

	規模な施設である。その他、観賞者のための食事場所、土産物店などがあるが、施設の老朽化が著しい。
⑤夢テラス展望回廊、風景美術館「日本平公園」	360度を見渡す施設として平成30年に開設された日本平夢テラス展望回廊は清水・富士山方面を望む優れた眺望点であるが、南側（御前崎方面）の眺望価値が認知されていない。
⑥人文的景観（産業景観、生活景観、夜間景観）	日本平からの望む清水の夜景は、平成28年に「日本夜景遺産」に認定されている。夜景を楽しむイベント「日本平夜市」が地域有志らによって開催され、多くの来訪者が訪れ、楽しむ機会となっている。その一方で夜景を楽しむ見学スポットが、昼間に比べ少ない、夜間の交通手段が自動車・バイクに限定される、といった問題がある。また、平時の物販店舗や夢テラスの営業は17時までであることも課題である。
⑦ミカン	有度山はミカン栽培に適した気候・地質であり、周辺で収穫されたミカン「日本平ミカン」と称され販売されている。一方で、担い手不足による耕作放棄地の増加、「日本平ミカン」の定義が不明瞭といった問題がある。
⑧放送関連施設	デジタルタワー建設後、既存のアナログ鉄塔5基はすべて撤去され眺望の改善が図られた。デジタルタワーは、静岡市街地より有度山を眺めた際、日本平の位置を示す目印（ランドマーク）となっている。

第3節 活用の現状と課題

Ⅰ 指定地全体の現状と課題

名勝日本平の本質的価値は、山頂部からの四囲の視野が開け、第一に富士山の麗容が印象に刻まれ、目を転ずれば、近景に清水港、三保松原、清見潟、久能山、駿河湾、遠景には赤石山系を望む優れた眺望にあるとされている。このため、昭和2年の「日本新八景と日本百選」で日本平が平原の部で百選に入選し、観光地としての名が全国広まった。これ以降日本平は観光地として様々な事業が展開されてきた。平成25年(2013)には、富士山が世界遺産登録に登録されるとともに、三保松原が世界文化遺産「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」の構成資産として認定されたことから、日本平山頂からの富士山や三保松原の眺望のニーズが高まった。平成30年(2018)に日本平山頂部に完成した日本平夢テラス展望回廊では、360度の展望に加え、日本平の歴史や文化を学ぶことが出来る施設として、名勝日本平の本質的価値が来訪者へ発信されている。また、日本平山頂部周辺地域においても、景観観賞のほか、ハイキングやサイクリングなどの日本平が有する自然のなかでのアクティビティや、久能山での史蹟探勝など、自然や歴史を学ぶ機会も出来てきた。

また、平成27年(2015)に日本平が、日本夜景遺産(日本夜景遺産事務局)に登録されたことを契機に、市民有志による「日本平夜市」が定期的で開催され、市民による活用もされてきている。このように日本平は、観光、地域づくり、教育などが行政や民間業者、地域住民など様々な主体により活用されている。

さらに、近年では、富士山静岡空港の開港、第二東名高速道路・中部横断自動車道路の開通、日本平・久能山スマートインターチェンジの設置により静岡市への来訪者の増加やさらには清水港へのクルーズ船の寄港が増加傾向にあり、日本平への国内外からの観光客の来訪の増加が期待される。

(1) 名勝日本平の活用に関連する計画及び制度

○名勝日本平保存管理計画

平成22年(2010)に策定した『名勝日本平保存活用計画』では、名勝日本平の価値を次世代に継承していくとともに、その魅力を発信する上での適切な整備活用を図るために、保存管理の方針及び具体的な現状変更等の取り扱い基準を定めた。この計画の策定においては、「規制一辺倒から公開・活用への方途を求めてきており、従来の保存管理計画の改定が必要となった。」としている。これにより、名勝日本平の指定基準と区分について、以前の「禁止地区」を「特別地区(A地区)」とし、「準禁止地区」と「緩和地区」を合わせて「保

全地区（B）」と転換し、名勝日本平の「鑑賞の場に相応しい環境整備」と保護手法の転換を行った。

いずれの地区も、現在の自然環境及び地形を改変しないことを原則としつつ、展望を確保する必要があると位置づけている。この計画の策定により、整備・活用の方針や運営・体制整備の整理とこれに関する基本的な考え方を示している。

・整備・活用に関する基本的な考え方（抜粋）

それまでの基本的な考え方を継続し、かつ名勝の文化的資産としての価値と魅力を未来に向けて継承・発展させる視点からの整備と活用が円滑に進むよう、また名勝日本平の本質的価値について、鑑賞者のみならず、地域住民にその魅力を広く情報発信し、貴重な宝物として認識してもらう必要がある。

【名勝日本平の位置づけ】

「静岡市文化財保存活用地域計画」の「平野部と丘陵部で育まれた信仰と文化」（抜粋）

静岡市域では、人々が多く暮らす平野部を囲む丘陵部で時代の様相に合わせながら寺院や神社が発展し、人々に信仰されてきた。そこでは、伝説の舞台となった日本平や、遠方に見える富士山等の風景を借景としつつ、絵画や歌、文学など、様々な文化が育まれてきた。

この活用の方針として、個々の文化財を関連づけた活用の推進などが挙げられている。

○しずおか遺産認定制度

【名勝日本平の位置づけ】

「日本平が紡ぐ悠久の歴史文化回廊」

ストーリーの概要

四周眺望の地、日本平。世界文化遺産の富士山を仰ぎ見る一方、眼下にはその構成資産となる三保松原など、古今名だたる景勝地を視界に収める歴史文化資産の展望回廊である。

日本平は、徳川家康ゆかりの久能山東照宮を始めとする歴史文化資産の集積地でもある。その歴史は神話の時代に遡り、悠久の歴史の中でその眺望は人々を引き付けてきた。眺望に魅せられた古今の文化が日本平で受け継がれている。

（しずおか遺産 ホームページ（静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課）より引用）

○日本平公園基本計画（令和7年度現在改定中）

【名勝日本平の位置づけ】

観光地域づくりを視点とした時代に即した体験の場と機会の提供によって、名勝日本平の価値と魅力を高め、時代に即した「日本平公園」となるよう、検証・見直しを行い、持続可能な観光地域づくりを目指す。

◆基本的な方向性

[基本構成]

- ・風景に特化した高質の静的空間を形成。
- ・観光基本計画を踏まえた「体験コンテンツの充実」に向けた様々な動的アクティビティの導入。
- ・公園における自然環境の多様な機能を活かし、グリーンインフラとして、自然に接し、心身の安らぎや学び、遊び等の場として積極的に活用。

[サステイナブル]

- ・公園やグリーンインフラによって「自然資本」を回復させ、持続可能な社会を構築。
- ・エコツーリズム、サステイナブルツーリズム等の観光需要の変化に対応する公園機能の向上。
- ・持続可能な公園経営を促進するため、公園利用における消費額の拡大、インバウンドの誘客促進等による運営管理を安定化。

[ウェルビーイング]

- ・グリーンインフラ機能の向上や、心豊かな生活を支える居心地のよい交流・滞在空間の強化により、地域社会の魅力度や幸福度の向上、観光・集客の競争力の強化に貢献。
- ・全てのこどもの健やかな成長、安全で安心して過ごすことのできる多様な体験活動や外遊びの機会の提供。

[公園利用の活性化]

- ・一年を通じて市民のレクリエーションや市民交流の場として地域活性化の中核を担う公園づくり。
- ・観光需要の拡大に向け、静岡市の特産である美食・絶景・歴史をテーマとしたアクティビティによる質の高い感動体験ができる公園づくり。
- ・公園区域を最大限に活用するため、パークアンドライド等の新たな交通システムの導入、将来的なクルマ社会に応じた駐車場規模の検証、三保松原等の周辺観光地からの回遊性を進展させる新たな交通手段等の導入。
- ・集客力を高めるために、カジュアル層からエグゼクティブ層までの幅広い利用ニーズに対応する高付加価値な宿泊施設や飲食施設、貴重な体験施設やプログラム等を提供。

◆基本テーマ・基本方針

①基本テーマ

「風景」の文化財的価値に加えて、市民生活の質的向上と、日本平が有する観光的価値を視点とし、富士山や駿河湾、伊豆半島、南アルプス等の遠景の視対象や、静岡、清水の中景の夜景といった変わらぬ風景に対し、公園整備による

- ・公園内のビューポイントや近景の構成要因の改善
- ・歴史文化の解説と演出
- ・様々なアクティビティの導入による非日常感の提供

を計画の骨子とし、日本を代表する絶景とともに、自然環境を最大限に活用した様々なアクティビティの導入や、歴史文化のストーリーを加えることで、季節や時間の移ろいとともに、園内各所で観光資源としての質の高い驚きと感動が体験できる魅力づけと、日本平公園のブランディング強化を強化する。

「風景美術館＝日本平」

～日本平の「驚きと感動」体験を支える日本一の展望公園を目指す～

②基本的な取り組み方針

取り組み方針①

目の前は日本一の眺望

<絶景>

○「季節が織りなす風景」

富士山を主景とした四周の風景と、園内の木々や草花が織りなす季節の移り変わりが、日本平の壮大な風景を創出し、いつ来ても感動の広がるビューポイントやシークエンスを設定

○「光が醸し出す風景」

1日の時間の中で山容を明瞭に見せる朝の風景、駿河湾から立ち上るもやで霞む日中の風景、日が沈む夕照、市街地の夜景、夜空の星の輝き等の光の風景を堪能する機能を点在させるとともに、「日本平夜市」やライトアップイベントによって夜間のアクティビティを提供

取り組み方針②

固有の歴史資源と遭遇

<歴史>

○「歴史が紡ぐ風景」

ヤマトタケルノミコトの時代を経て、日本平は家康公の東照宮に続く、1,400年余りの悠久の歴史をもつ久能山において、古くから多くの人々の信仰を集めてきた、かけがえのない聖地としての文化的風景を形成

取り組み方針③

賑わいと自然体験を提供

<アクティビティ>

○「人が奏でる風景」

子どもたちの歓声、園内で催されるイベントや音楽の調べ、公園は人々が利用することで活気のある景観が生まれる。ウェルビーイングなライフスタイルに寄与する賑わいと交流の風景を創出

◆空間の骨格構成

地形的、景観的特徴を踏まえ、計画地が本来有していたポテンシャル（開放的台地形）を再生し、併せて久能寺の参詣道であった歴史性をモチーフとして空間にストーリー性を持たせ、公園区域の南側（富士山側）から、前庭、中庭、奥庭とし、各々のゾーンの特徴に合わせて施設を配置する。

前庭 ～富士に広がる展望～

富士山方向に大きく開けた緩傾斜の地形を生かした開放的な芝生地や花修景地として活用

中庭 ～広場に集う、まちの賑わい～

寺社の門前町を見立てとした来園者の集散の場、祭り・イベント空間や、茶屋などの飲食・物販施設を配置し、まちのにぎわいを創出

奥庭 ～歴史が伝える四周の眺望～

久能寺（現在は東照宮）への現代の参詣道であるロープウェイと、東照宮にあった五重塔をデザインモチーフとしたデジタル電波塔や、夢殿にも擬することのできる夢テラス、展望回廊をシンボルとした静謐の園地として活用

○静岡市観光基本計画

【名勝日本平の位置づけ】

重点テーマ戦略（抜粋）

総合戦略、国内戦略、インバウンド戦略を踏まえ、重点的に取り組むテーマ

イ 絶景

【方向性】

本市は、市街地に近接する丘陵地や山間部などの豊富なビューポイントと、富士山や清水港、中心市街地などが織りなす特色ある景観に恵まれている。特に名勝「日本平」からの富士山と清水港エリアが眼下に広がる景観は、清水港・みなと色彩計画推進協議会による長年の共創の取組により、港湾施設等の色調が整えられていることも相まって、まさにここだけの絶景である。こうした経緯を踏まえ、日本平はもちろんのこと、世界文化遺産「富士山」の構成資産である「三保松原」、日本一深い湾としても知られる「駿河湾」、静岡市市域の約80%を占める「オクシズ（中山間地域）」などの絶景を資源とした観光コンテンツを提供する。また、市内各地において、五感で味わえる体験プログラムの造成や提供に取り組むとともに、そうした取組を促進するような環境を醸成する。

② 重点エリア戦略

総合戦略、国内戦略、インバウンド戦略を踏まえ、重点的に取り組むエリア

ア 日本平・久能山・清水港・三保松原エリア

【方向性】

名勝地や文化的遺産、商業施設や港の機能が集積し、本市の観光の顔とも言える、「日本平」「久能山」「清水港」「三保松原」を一体的なエリアと捉え、観光地域づくりに取り組む。また、本市で改定版を策定中の「日本平公園基本計画」との連携や、日本平動物園などの周辺の観光施設、県を中心として日本平周辺に点在している文化・芸術施設（静岡県立美術館、静岡県舞台芸術公園、ふじのくに地球環境史ミュージアム等）を一体的に捉えて活かす取組との連携など、当地が効果的にアピールできるように調整する。

【具体的な取組/施策例】

この重点エリアにおいて、具体的には市内組織「新観光地域づくりプロジェクトチーム」の下にサブプロジェクトチームを設け、移動手段の問題や観光資源の活用など、幅広い検討を行う。この中には、清水港に寄港するクルーズ船の乗船客に対する市内周遊促進も含める。また、旧三保飛行場の有効活用などについても、別のプロジェクトチームで検討を進める。また、清水みなとまちづくり公民連携協議会で策定する清水みなとまちづくりグランドデザイン及びリーディングプロジェクトと連携を図るほか、クルーズ客への周遊促進や、ナイトツーリズムの推進、日の出地区に整備予定の「海洋・地球総合ミュージアム」や三保松原周辺の施設等の有効活用も含めて、観光事業者、まちづくり団体、交通事業者、地元商工業団体などと幅広く連携し、当該地域の観光地域づくりのあり方を地元関係者も交えて検討する。検討の結果、準備が整ったものから順次取組を進める。

なお、「日本平公園基本計画」や日本平周辺の文化・芸術施設等との連携については、山頂を中心として舞台芸術公園、美術館、博物館や MICE 施設などが集積している地域であるため、その回遊性を高める交通手段の確保、飲食、販売、宿泊事業者との連携の促進や一体的プロモーションを行うことを検討する。

○静岡県立自然公園条例（日本平・三保松原県立自然公園 公園計画書）

景観観賞の他、ハイキングやサイクリング、久能山での史蹟探勝、三保海岸での海水浴、網引きなど多岐にわたっている。平成 25 年（2013）に、三保松原が世界文化遺産「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」の構成資産として認定されたことから、文化的景観を求める利用が増加することが予想されるため、自然と文化を感じ、学びの場となることができる利用等を進めている。

(2) 課題

名勝日本平の活用においては、名勝日本平の本質的価値を享受し、これを適切に現在の地域社会に活かし、将来へ継承することが求められている。上記に示した現状から、今後、更なる活用に向けた取り組みを行うにあたっての課題を挙げる。

活用の課題

○価値の再評価と関連付け

名勝日本平の価値を高め、より分かり易く、より魅力的なものにする

○価値の共有

活用する主体が多様化しているため、価値を広く紹介し、認識してもらう必要がある

○求められる多様かつ持続可能な活用

活用する主体を広げ、多様な活用のあり方へつなげる

①日本平の価値の再評価と関連付け（価値をより分かり易く、より魅力的に）

- ・日本平の価値の再評価が必要である

名勝日本平が持つ本質的価値については、これからも普遍的な価値として未来へ継承していくべきものであるが、人口減少や地域高齢化など複雑化する地域社会へ活かすためには、日本平の価値が多くの人々に認識されなければならない。そのためには、名勝日本平の価値をより高めるとともに分かり易く、魅力的なものにしていかなくてはならない。かつ、日本平のもつ構成要素や関連要素の研究による価値の深化や再評価が必要である。

- ・周辺文化財との関連付けが求められている

静岡市保存活用地域計画では、日本平は、「平野部と丘陵部で育まれた信仰と文化」という関連文化財群の一つに位置付けられ、周辺の文化財と一体的かつ総合的に保存・活用されていくことが求められている。これまでは、名勝日本平という一つの文化財での活用が求められてきたが、指定区域の周辺に存在する文化財と関連づけられ、ストーリーが設定されることにより、文化財の相乗効果が生まれ、文化財が有機的に結ばれ「地域（エリア）」としての新たな活用が求められている。

構成要素相互の関連付けやより広域の文化財との関連付けにより名勝日本平がもつ本質的価値への新たな発見が必要である。特に日本平を中心に持つ有度丘陵は、四囲それぞれに特徴を有し、様々な歴史的、文化的資産を有している。

このような、名勝日本平の本質的価値やその構成要素を詳らかにすることが、現在や将来の地域社会の活性化につなげる活用の前提として大きな課題の一つである。

②価値の共有

・活用する側への変化への対応

日本平は、現在、観光資源としての活用促進と、民間事業者や地域住民など多くの主体による利用が期待されている。このため、日本平の価値を来訪者等へ広め、認識してもらうためには、このような様々な活用に関わる主体との価値の共有が必要である。

・地域住民へ愛着や親しみを持ってもらうための発信

静岡市文化財保存活用地域計画では、本市の文化財のあるべき姿として、静岡市の誇る歴史文化の結晶である文化財について、市民がその魅力に気づき、郷土愛を育み、地域で守り、様々な人々が学習の場や観光資源として磨きあげ、市民自らが内外にその情報を発信することで、市民の財産として将来にわたって継承されている姿を目指している。これは、行政や関係機関だけでなく、様々な団体や地域の人々が主体性をもって活動することが不可欠であるとするものであり、このためには名勝日本平が、観光客だけでなく、静岡市民にも本質的価値が共有されなければならない。

③求められる多様な活用

・多様な主体による活用

日本平は現在、観光資源としての活用促進が期待されているが、今後多くの人々に日本平の価値が共有されることで、地域振興や教育、健康づくりなど、地域社会の活性化につながる資源としての様々な活用が期待されている。

・持続可能な活用（価値の継承につながる活用）

日本平は、公園整備や観光促進による活用を図っているところであるが、オーバーツーリズム（観光公害）などの景観の価値を損ねてしまうことがないようその活用のあり方を確かめていく必要がある。文化財の活用は、文化財を地域社会へ活かすと共に、価値が未来へ継承されていくところにあるため、これを阻害するものとならないよう持続可能な活用が求められる。

2 利活用の状況

(1) 日本平の主な年間行事

①日本平まつり（花火）：

（7月下旬）：日本平ホテル野外庭園が会場となり、芝生に寝ころびながら花火を楽しむ。12,000発の花火が打ち上げられ、静岡の夜景と花火のコラボレーションが楽しめる。自家用車の来場はできないため、有料シャトルバスが運行される。

②日本平梅まつり

（2月下旬）：本平山頂付近にある梅園にて開催されるお祭り。紅梅や白梅などの約350本の梅が咲き、富士山との美しい景色が楽しめる。

③日本平ウォーク

（2月）：富士山を望む景勝地である日本平を中心に、静岡市内の歴史的な旧東海道を含むコースを巡るウォーキングイベントであり、富士山の景観や静岡の名所を楽しみながら、地元の恵みで参加者の疲れを癒すことを目的としている。久能山東照宮までに石段を上るチャレンジコースと、日本平ハイキングコースを通るベーシックコースの2種類がある。このイベントは県内外から約1,000人が参加し、草薙総合運動場をスタートして、最長約18kmのコースを歩く。コースの途中には、チェックポイントが設けられ、地元のミカンや甘酒等がふるまわれる。日本平ウォークの収益金の一部は市へ寄贈され、日本平ハイキングコースの整備に役立てられる。

④日本平夜市

（通年 毎月第4土曜日）：毎月第4土曜日に日本平で開催される夜型マルシェで、地元の人から観光客まで、幅広い層が楽しめるイベントとして親しまれている。日本平夜市は、日本夜景遺産に登録された日本平の夜景を活かし、地域住民や観光客が気軽に楽しめる場所を提供したいという思いからはじまった。地元の有志が中心となり、10代～30代の実行委員会が運営している。夜市にはフードや雑貨など様々なお店が出店し、音楽演奏などのイベントも開催される。日本平は、かつて日本一の観光地として知られていたが、夜間は暗く怖いというイメージがあった。日本平夜市は、夜の日本平のイメージを一新し、誰もが楽しめる場所にすることを目指している。

(2) 近年の来訪者の推移

平成30年11月にオープンした夢テラスの入館者数は、令和5年度は約53万人、令和6年度は約47万人である。

日本平夢テラス 来訪者数													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30	—	—	—	—	—	—	—	120,799	102,293	159,416	116,260	144,840	643,588
H31	110,386	128,148	83,035	60,726	45,040	50,031	58,748	95,806	49,544	84,992	60,962	44,935	872,353
R2	13,469	8,605	17,437	14,297	29,953	29,747	43,598	48,107	27,917	39,781	29,013	32,453	334,377
R3	27,796	30,478	17,233	22,907	12,316	0	22,065	50,612	29,876	47,512	28,808	41,393	330,992
R4	31,468	47,574	25,589	24,229	33,206	22,975	34,555	45,522	32,108	52,152	43,519	48,848	441,745
R5	45,167	58,229	30,848	38,666	39,206	41,413	50,606	54,186	29,341	46,402	36,042	55,241	525,347
R6	41,587	46,455	29,407	30,437	30,741	34,172	38,692	49,697	30,252	47,010	46,007	50,220	474,677
合計	269,873	319,489	203,549	191,262	190,462	178,338	248,264	464,729	301,331	477,265	360,611	417,930	3,623,103
平均	44,979	53,248	33,925	31,877	31,744	35,668	41,377	66,390	43,047	68,181	51,516	59,704	

出典：日本平夢テラス来館者数（静岡県）

日本平夢テラス来訪者数の推移

日本平ロープウェイの輸送人数は、令和5年度約90万人、令和6年度約50万人である。

単位：人

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
2023年度	一般	59,360	71,582	40,694	46,502	56,334	47,894	63,590	74,847	48,428	71,889	42,928	53,976	678,024
	団体	16,783	20,518	32,528	10,691	7,895	32,906	28,088	26,008	10,358	7,825	9,314	20,361	223,275
	計	76,143	92,100	73,222	57,193	64,229	80,800	91,678	100,855	58,786	79,714	52,242	74,337	901,299
2024年度	一般	47,650	49,372	0	28,102	41,244	37,933	45,261	55,640	38,968	59,217	44,019	49,593	496,999
	団体	16,991	14,960	0	8,289	5,594	13,105	15,844	17,385	7,584	6,839	7,268	17,225	131,084
	計	64,641	64,332	0	36,391	46,838	51,038	61,105	73,025	46,552	66,056	51,287	66,818	628,083

※2024年5月29日～7月5日運休

出典：静岡市資料

日本平ロープウェイの輸送人数

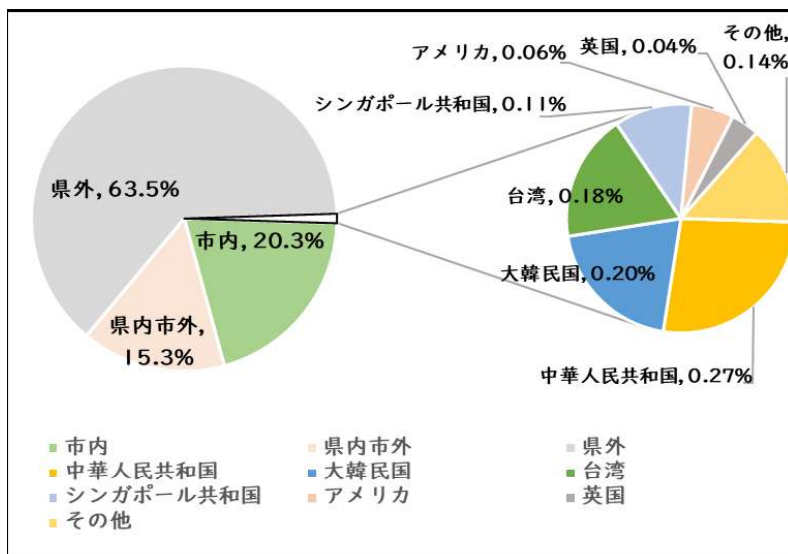
（3）来訪者の状況

来訪者の国籍では、ほぼ日本人の利用である。県外からが6割以上、市内からは約2割の利用である。

一方で外国からの利用では、中華人民共和国、大韓民国、台湾、シンガポール共和国等の近隣アジアの国や地域からの利用が多くなっている。

利用者の年齢では、「50歳代」が最も多くなっている。

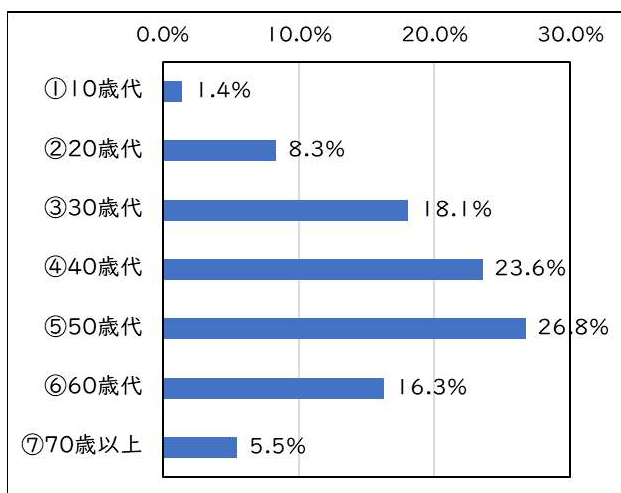
利用目的では、「風景鑑賞」、「各施設などの散策」、「写真撮影」等の目的での利用が多い傾向である。



調査期間：令和5年4月1日-令和6年3月31日

出典：静岡市位置情報（日本平夢テラス）を加工

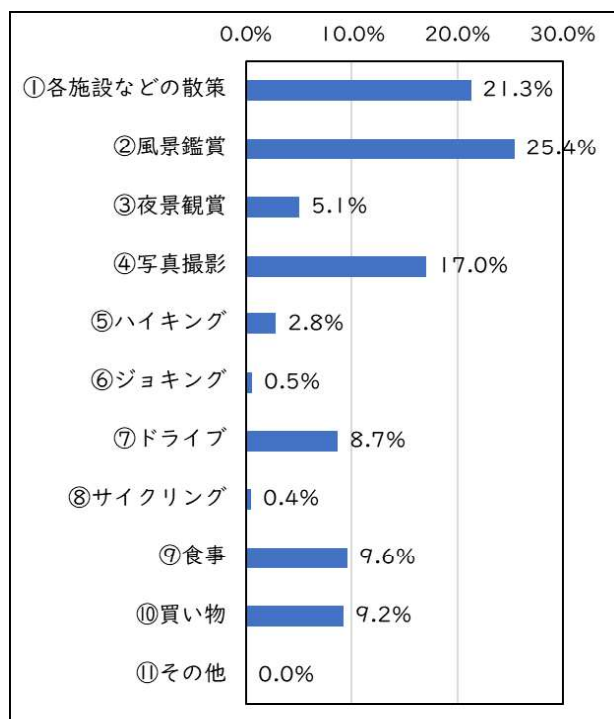
国内及び海外からの来園者割合（位置情報より集計）



調査期間：令和6年8月16日-令和7年1月31日

出典：日本平公園利用者アンケート調査結果

日本平公園来訪者の年代



調査期間：令和6年8月16日-令和7年1月31日

出典：日本平公園利用者アンケート調査結果

日本平公園来訪者の年代別目的

日本平観光レクリエーション客数

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6
訪問者数	1,994,897	1,495,254	1,485,498	1,727,355	1,630,937	1,682,346

（４）利便施設の状況

整備中の日本平公園には大芝生広場や夢テラス周辺には休憩施設が配置されている。大芝生広場周辺においては、園路に沿うように背無ベンチが5基、日本平夢テラス前の広場においては、4基のテーブルベンチが配置されている。

また、多数の来客に対応するため、各所にトイレが設置されている。県営駐車場やロープウェイ利用者駐車場など、移動の要所となる地点には独立した化粧室が設置されており、双方ともに多機能トイレを1基備えている。また、日本平夢テラスにおいても、多機能トイレを備えた化粧室が設置されている。